

講義名	教養特講Ⅰ（働くことを考える）			授業形態	
担当教員	上瀬 真生	開講期・曜日・時限	前期 木曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生
				ナンバリング・コード	

主題と概要
大学を卒業すれば、みなさんは社会に出て働くことになる。大学4年間はそれに向けた準備の時期である。もちろん、大学生の間にもアルバイトをつうじて働くことを経験する者は多い。しかし、働くことについて、日本社会における全体状況を見通して客観的に考える機会が少ない。 この講義では、学生アルバイト、就職、雇用と失業、賃金、労働時間、男女の働き方など、これからみなさんが経験するであろう働くことをめぐる諸問題をとりあげ、その現状を伝えながら、働くことの意味をどう捉え、大学生生活をどう過ごすのか、また、卒業後の職業生活にどういう姿勢で臨むのか、ともに考える。ディスカッションの要素も取り入れながら、みなさん自身が働くことについて自分なりの考えをまとめ、表明できるようにすることをめざす。

到達目標
①今日の日本において働くことに関わる諸問題について、概括的に理解することができるようになる。 ②以上を踏まえて、働くことの意味と大学生生活の過ごし方について、自分なりの考えをもつことができるようになる。

提出課題
①毎回、簡単な課題を課す。 ②講義で取り上げた諸問題のうち、一つの問題について論じる最終レポートを課す。 ＊これらについては、Campus-Xsをつうじて提出を求める。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法
毎回の課題については、Campus-Xsをつうじて採点結果を伝え、次回の講義でコメントする。 最終レポートについては、要望があれば採点結果を伝える。

評価の基準
毎回の課題と最終レポートとの合計点で評価する。 毎回の課題 70点 最終レポート 30点

履修にあたっての注意・助言他
受講生自身が新聞やニュースを通じて、働くことをめぐる諸問題に注目する努力をしてほしい。 円滑に講義を行うため以下のとおり受講ルールを定める。 ①13:15以降は入室禁止 ②座席は教員の指示に従う ③私物は整理。目にあまる場合は退室してもらう。 ④携帯電話などの電源は切る（レジュメへの書き込みなどでPCやスマートフォンを使う場合は例外とするが、写真撮影は禁止する）。

教科書
．教科書は使用しない．

参考図書
．講義内で適宜紹介する．

その他
Campus-Xsをつうじてレジュメ、資料を配信する。 配信は講義日の3日前を基準とする。 受講生は、これらをダウンロードし、印刷するなど、講義に向けて準備すること。

授業計画
01 働くことの意味を考える① ―働くことの喜びと苦しみ 02 働くことの意味を考える② ―どうすれば、働くことの喜びを増し、苦しみを減らせるか 03 アルバイトを考える① ―法政科学大学生のアルバイトの現状 04 アルバイトを考える② ―大学生生活を豊かにするアルバイトのあり方 05 就職を考える① ―就職をめぐる状況 06 就職を考える② ―卒業時に悔いのない大学生生活を計画する 07 雇用と失業を考える① ―雇用と失業をめぐる状況 08 雇用と失業を考える② ―雇用と失業をめぐる状況をどう改善するか 09 賃金を考える① ―賃金をめぐる状況 10 賃金を考える② ―賃金をめぐる状況をどう改善するか 11 労働時間を考える① ―労働時間をめぐる状況 12 労働時間を考える② ―労働時間をめぐる状況をどう改善するか 13 男女の働き方を考える① ―男女の働き方をめぐる状況 14 男女の働き方を考える② ―男女の働き方をめぐる状況をどう改善するか 15 再度、働くことの意味を考える ―最終レポートの作成に向けて

授業形態（アクティブ・ラーニング）		
ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	☒	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
毎回の課題をふまえた講義内容の振り返り 45時間 最終レポートの準備 15時間

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
この科目は、金学共通科目／教養科目／教養特講に位置づけられている。到達目標①・②を達成することによって、本学学生が「共通して身につけておくべき資質・能力」のうち、「知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材」、「創造力（新しい視点と豊かな発想）を持った人材」となることに寄与する。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
授業内でグループに分かれて意見交換してもらい、その結果を報告してもらう。 以上の報告など、提出された課題について次回講義でコメントする。

実務経験の有無及び活用
なし。

備考
Campus-Xs や RYUKA Portal のメールなどをこまめにチェックすること。